

平成28年度
公益財団法人つくば科学万博記念財団
事業報告書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

はじめに

公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、平成 28 年度に、財団を取り巻く社会経済、科学技術環境が大きく変化していることを踏まえ、今後果たすべき役割や課題に対し、明確なビジョンと方針をもって事業を計画的に進めるため、つくば科学万博記念財団中長期計画（以下「中長期計画」という。）を策定した。

平成 28 年度は、第 5 期科学技術基本計画の初年度にあたる年度であるとともに、5 月に G7 茨城・つくば科学技術大臣会合がつくば市において開催されるなど、世界から科学技術に対する広い関心が向けられた。これらの科学技術・イノベーション政策も留意して、財団は設立後のこれまでの 30 年とこれからの 10 年を見通して、いかなる目標を持ち、どのような対象に対して働きかけ、具体的活動として何を進めるべきなのかという観点にたち、真に必要な事業を精査し、新しくチャレンジしていくことを意識して既存事業の必要性・効果・実施体制等を見直していくことを念頭に事業に取り組んだ。

また、つくばエキスポセンター（以下「センター」という。）来館者の約 6 割の方が観覧するプラネタリウム設備のオーバーホールが約 1 ヶ月半あったにもかかわらず、入館者数が前年度にくらべて増加したことは、各職員が策定中であつた中長期計画の意図を意識し、魅力度の低下を抑える対応、新しい企画に着手した成果が表れたものと考えられる。

平成 28 年度事業計画に従い実施した事業は以下のとおりである。

I. 事業の実施状況

1. つくばエキスポセンターの運営

科学技術に対する興味関心の喚起と理解増進を図るため、筑波研究学園都市の中心地にある科学館という地域の特徴を活かし、大学や研究機関、自治体、企業等と連携し、展示、催事、プラネタリウム等の事業を展開した。

事業の実施にあたっては、関係機関や監修者など外部の意見を柔軟に取り入れ内容の充実に努め、あらゆる人が科学技術に関する情報交流ができる科学館としての機能強化を図った。

1-1. 入館者

平成 28 年度の入館者数は 184,243 人であり、11 月末から 1 月中旬までプラネタリウムのオーバーホールによりプログラムの上映がない中で、ここ 10 年間でも最も多い入館者数となった。

要因としては、科学技術と芸術・文化等との融合した取り組みとして開始した「星空コンサート」、プラネタリウムのオーバーホール期間中に気軽にプラネタリウムに触れる機会を提供した「みんなのプラネタリウム」の実施、幅広い世代を意識した内容の特別展の開催など、館全体としての魅力度の維持や向上に取り組んだことが一般来館者の増加に繋がったと思われる。

表 - 1 入館者数

年度/月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
28	41,676	73,489	36,350	32,728	184,243
27	39,750	69,819	38,996	30,757	179,322
年度増減	1,926	3,670	△2,646	1,971	4,921

表 - 2 プラネタリウム入場者数

年度/月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計/平均
28	26,070	48,096	19,216	19,803	113,185
入館者比 (%)	63	65	53	61	61
27	23,532	44,902	23,441	20,255	112,130
入館者比 (%)	59	64	60	66	63

※プラネタリウムオーバーホール期間（11月27日～1月12日）は上映なし

表 - 3 団体利用者数

年度/月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
28	7,615	11,193	10,077	5,607	34,492
27	8,609	11,290	10,973	4,481	35,353
年度増減	△994	△97	△896	1,126	△861

※団体利用者数としては減少したが、件数としては709件で前年度(706件)を上回った。

1-2. 展示【公益1】

(1) 1階展示場・エントランスホール

- ① 「おもしろサイエンスゾーン」に特別展で常設展示化を意識して製作した体験展示物「風のチューブ」の設置、また、東京工業大学や企業等が開発に取り組んでいる多様なレスキューロボット（実物）の提供を受けて、「ロボットステージ」の更新を行い新たな展開を図った。

他に、エネルギーゾーン JAEA コーナーにおいて、元素の起源に関する解説内容の充実を図るため、展示「クロノタッチ」の更新、映像「宇宙の錬金術」等を追加した。

- ② 科学技術に関連する実験や体験を通じて、来館者とコミュニケーションを図る「楽しい科学体験・相談コーナー」では、ボランティアインストラクターが中心となって、自作した科学アイテムを持ち寄り、様々なメニューを展開して科学技術への入門的役割を担った。
- ③ 「サイエンスシティつくば再発見」においては、筑波研究学園都市の研究活動を紹介するとともに、研究機関の特色あるイベントを通して取り組みや活動等の理解増進を図った。また、今後の発展的展開や研究機関等とのさらなる連携や協力体制の強化を図ることを目的にコンセプトの見直しに着手し、コーナーのあり方を検討した。
 - 国立環境研究所（3月～5月）
 - 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門（6月～9月）
 - 防災科学技術研究所（9月～11月）
 - 防災科学技術研究所／火山編（1月～4月）
- ④ 「科学万博-つくば'85 メモリアルゾーン」では、引き続き科学万博当時の展示物や映像等を展開し、国際科学技術博覧会の開催趣旨や意義を伝えた。また、1980年代の科学技術を紹介した「今を築いた日本の先端科学技術～1980年代を振り返って～」では、様々な実物展示等を通して、科学技術の発展を実感するとともに、当時を振り返る契機とした。加えて、JR 東海の協力を得て、開発中である次世代の輸送システム「超伝導リニア」の紹介映像を最新バージョンのものに更新した。

（2）2階展示場

- ① 「夢への挑戦ーのぞいてみよう科学がひらく未来ー」では、超への挑戦ゾーンに筑波大学の協力を得て、さらなる宇宙の謎に迫る極地における観測計画と世界最先端望遠鏡「南極 10m 級テラヘルツ望遠鏡模型 (1/20)」を紹介した展示を追加した。

また、地球環境への挑戦ゾーンで展開していた藻類バイオマスエネルギー展示（協力：国立環境研究所）については、さらなる発展と展開を見通して、国際戦略総合特区プロジェクトの主体である筑波大学との協議を重ね、内容の見直しと検討を進めた。

- ② 「創造の森“ワンダーラボ”」では、科学技術をテーマにした情報発信をはじめ、あらゆる人が学び、コミュニケーションの契機となる場として、サイエンスショーや講演や展示解説ツアー等を実施した。
- ③ 「サイエンスギャラリー」においては、「科学技術の『美』パネル展」のデータベース展示に最新情報（平成 28 年度受賞作品）の追加更新を行った。また、オープンスペースという空間を活用して、青少年を対象にした地域イベント「第 60 回茨城県児童生徒科学技術研究作品展県南地区展」の開催や「宇宙の日 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品展示会」の展示会を行った。
- ④ 「3D シアター」は、機能拡張や活用の利便性等のさらなる向上を目的にサイエンスシティつくば再発見コーナーへ移設した。移設後の居室は、春の企画展会場として VR 技術の一端を体験することができる「Large Space」（筑波大学）の場として活用した。

（3）屋外展示場

- ① 現在の科学技術活動に貢献した展示物として設置している「南極専用小型雪上車」を南極 OB 回茨城支部と連携して、国内唯一の動態展示を目指したメンテナンス等を行った。
- ② 屋外展示場において科学技術に関係する植物として展示している「ニュートンのリンゴの木」、「宇宙アサガオ（第 6、第 7 世代）」の育成・管理を行った。

1-3. 催事【公益 1】

（1）通常催事

世代を問わず、あらゆる人が科学技術と出会い、興味関心を深める機会となることを意識して、科学技術に関する現象や原理、応用技術について、親しみやすいテーマや解説で実施した。

① サイエンスショー

いつでも科学技術に触れられる機会として、身のまわりにある科学現象をはじめ、常設展示に関連する原理や技術などをショー形式で楽しく演出し、実演を通してわかり易く解説した。（12 テーマ／137 回）

<テーマ一覧>

4月	飛ぶ	(特別展テーマ連携)
5月	シャボン玉	(常設展示連携)
6月	身近な気体	
7月	超低温の世界	(常設展示連携)
8月	深海の世界	(常設展示連携)
9月	大気圧	(常設展示連携)
10月	ドライアイス	
11月	音	(常設展示連携)
12月	光の七変化	
1月	色イロな水	
2月	静電気	(季節のサイエンス)
3月	火山のひみつ	(研究機関活動連携)

② 科学教室

科学に関する原理やしくみについて理解を深めるとともに、ものづくり体験を通して工夫された技術や重要性を学ぶ機会となるよう定期的に工作教室を行った。(19テーマ/148回)

<テーマ一覧>

春休み	竹とんぼ	(特別展テーマ連携)
4月	ブーメラン	(特別展テーマ連携)
ゴールデンウィーク	スカイスクリュー 立体万華鏡	(特別展テーマ連携)
5月	風船ロケット	
6月	風船スライム	
7月	バランストンボ	
夏休み	ホログラムゴマ UVチェックストラップ 磁性スライム ビーズの万華鏡	(季節のサイエンス)
9月	風船ホバークラフト	
10月	CDゴマ	
11月	水笛	
12月	アロマキャンドル	(季節のサイエンス)
1月	ぐにやぐにや凧	(季節のサイエンス)

2月	手作り my カイロ	(季節のサイエンス)
3月	ゴム動力飛行機	
春休み	ミニ空気砲	(常設展示連携)

③ エキスポ探検隊

スタッフがツアー形式で来館者とコミュニケーションを図りながら展示場や展示物を巡る企画として、展示や解説パネルにはない裏情報なども加え、分かり易く実施した。(6テーマ/72回)

<テーマ一覧>

4月・5月	地球深部探査船ちきゅう	(2階展示解説)
6月・7月	しんかい6500	(2階展示解説)
8月・9月 10月・11月	宇宙飛行士	
10月・11月	地球温暖化	(2階展示解説)
12月・1月	ミライ科学技術ツアー	
2月・3月	わくわく科学体験ツアー	

④ 天体観望会

プラネタリウム設備を効果的に活用し、天文学および天体観測の入口的役割になることを意識して、天文や星空、星座への興味を喚起することを目的に観望会を定期的の実施した。(隔月開催/7回)

また、意外性を狙った取り組みとして、日中に天体観測を行う「昼間の天体観望会」を実施(4回)して天体をテーマに来館者とコミュニケーションを図った。

<テーマ一覧>

5月	火星の接近
7月	月と土星
8月	土星・火星・アンタレス
9月	夏の大三角
11月	ペガサスの四辺形
1月	プレアデス星団
3月	冬のダイヤモンド
その他	昼間の天体観望会(金星、太陽および黒点)

※昼間の天体観望会 12月7日(水)、8日(木)、17日(土)、18日(日)

⑤ 科学入門講座

科学入門講座は、科学技術に関して、もっと詳しく、さらに踏み込んで、という要望に応える企画として、ボランティアインストラクターを中心にテーマや内容の提案を募り、得意分野や専門性を活かして実施した。(23 テーマ/23 回)

<テーマ一覧>

4月	・ホバークラフト	(特別展テーマ連携)
5月	・顕微鏡観察	
6月	・太陽熱気球 ・数とプログラミング	
7月	<楽しい自由研究> ・坂歩き紙馬の動作調べ ・草木染	(夏休み自由研究対応)
8月	・ライントレーサー	(特別展テーマ連携)
9月	・数とプログラミング ・クロマトアート ・正多面体の科学	
10月	・HII ロケットの高さを測ってみよう ・偏光ステンドグラス	
11月	・くるくるレインボー ・クリスマス風車 ・ラジオ工作	
12月	・数とプログラミング ・踊り子モーター ・ホバークラフト ・ハニカムペーパーツリーのクリスマスカード	(季節のサイエンス)
1月	・燃料電池工作を体験しよう	
2月	・放射線がみえる霧箱工作	
3月	・数とプログラミング ・ストローモルフ	

(2) 特別催事

① 特別展

科学技術への興味や関心を活性化する取り組みとして展開している特別展は、そのテーマごとに内容を一新することから、企画や内容のさらなる充実をはじめ、あらゆる世代の来館者の来館の契機となることや新たな発掘、再来館を促すことを意識して企画した。

また、実施にあたり研究機関や企業等の企画段階からの参画、準備段階においても連携するという体制の強化にも取り組んだ。

a. 特別展「飛ぶひみつ」

テーマ：飛行

期間：平成28年3月25日（金）～6月12日（日）

監修：丹波 純（工学博士・元紙飛行機日本チャンピオン）

協力：宇宙航空研究開発機構、日本航空株式会社、森林総合研究所 他14機関

後援：文部科学省、茨城県 他2機関

来館者数：40,639人（前年度36,375人）

b. 特別展「たのしく体験 ロボットと人工知能」

テーマ：ロボット、人工知能

期間：平成28年7月16日（土）～9月4日（日）

共催：筑波大学

協力：産業技術総合研究所、日本原子力研究開発機構、株式会社フジキン 他10機関

後援：文部科学省、つくば市

来館者数：53,833人（前年度50,199人）

※関連イベントとして、プラネタリウムホールにてロボットスーツ HAL を開発した筑波大学の山海嘉之教授による“ロボット技術等の発展による私たち未来の暮らし”を考える講演会を開催。

c. 企画展「3次元のかたち～作る技術、感じる技術～」

テーマ：立体化の技術

期間：平成29年3月25日（土）～6月11日（日）

企画：筑波大学三谷純教授（監修）、岩田洋夫教授（協力）

協力：国土交通省国土地理院、産業技術総合研究所 他9機関

後援：内閣府、文部科学省、筑波大学、つくば市教育委員会

来館者数：28年度分5,490人（前年度同期4,653人）

② G7 茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念事業

茨城県やG7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会等からの記念事業の実施要請を受けて、同時期に開催している特別展や地域の特色を活かすことを考慮し、①野口聡一宇宙飛行士による講演会、②地元中学生が考えた「未来の宇宙開発と科学技術」に関する発表会、加えて、③研究者や専門家を交えた参加者全員による意見交換の3部構成プログラムで記念事業を行った。

名 称：宇宙飛行士講演会「宇宙への挑戦」

日 付：平成28年5月7日（土）

場 所：筑波学院大学

共 催：つくば市

協 力：G7 茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会 他2機関

後 援：内閣府、文部科学省、茨城県 他3機関

参加者数：約500人（関係者等含む）

③ ミーツ・ザ・サイエンス

日常的に未来社会の姿を実現しようとしている研究者や専門家から直接話を聞き、活きた科学技術に触れ、実感し、活動を理解する場となることを目的に幅広い観点からのテーマと内容で実施した。当イベントは参加者から好評であり、また研究者や研究機関側からも定例的な開催要望がでてきているテーマもあり、取り組みとしても定着してきている。

<テーマ一覧>

7月18日（月祝）	第31回海の日講演会「地球の謎にせまる～地球深部探査船『ちきゅう』のおはなし」 講師：倉本真一（海洋研究開発機構） 藤井友紀子（海洋研究開発機構） 共催：海洋研究開発機構
9月17日（土）	第32回「南極の今！つくばに戻った隊員たち語る」 講師：押木徳明（気象庁） 下野隆洋（国土地理院） 共催：南極OB会茨城支部 協力：国立極地研究所、つくば市
11月27日（日）	第33回「南極から探る宇宙」 講師：中井直正（筑波大学） 協力：筑波大学、国立極地研究所

2月18日（土）	第34回「チョコレート・サイエンス」 講師：宇佐美徳子 （高エネルギー加速器研究機構） 共催：KEK 物質構造科学研究所 協力：東京フード（株）
3月26日（日）	第35回「ニホニウム～宇宙の元素誕生から113番 元素合成まで」 講師：小浦寛之（日本原子力研究開発機構） 協力：日本原子力研究開発機構 理化学研究所 仁科加速器研究センター 愛媛県総合科学博物館

④ その他主催・共催事業

- a. 産業技術総合研究所との共催で、災害が発生した時の対処方法や医療等の知識普及と教育を目的とした「災害医療を学ぼう災害医療クエスト」を開催した。(5月3日(火祝)～5日(木祝)・7日(土)・8日(日))
- b. 「国際植物の日」の関連行事として、国立環境研究所との共催で、地球温暖化をテーマに環境問題に対する意識啓発を目的に「トークセッション 2050年の天気予報」をプラネタリウムホールにおいて実施した。(5月29日(日))
また、筑波大学や国立科学博物館筑波実験植物園と連携し、各会場で植物の大切さを考える契機となるようエコバック等のプレゼントを行い、センターにおいては育成している宇宙アサガオの種の配布と宇宙放射線による生物の変異に関する解説を行った。(5月22日(日))
- c. 原子力発電環境整備機構に協力し、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する正しい知識と理解増進を目的に、ジオ・ミライ号による巡回展示とロボット「Pepper」による解説を行った。
(6月11日(土)、12日(日)、8月23日(火)～28日(日))
- d. 全国同時七夕講演会の実施会場の一つとして、高エネルギー加速器研究機構と共催し、講演会「夜空のムコウー重力波ってなに？ー」を開催した。(7月2日(土))

- e. 第3回全国児童館・科学館・美術館対抗 KAPLA 大会に参画し、「魔法の板『カプラ』で遊ぼう」と題して、子どもから大人まで参加でき、独自のイメージや発想を小さな木の板で創りあげる創作イベントを実施した。(8月26日(金)、27日(土))
- f. 内閣府 PFI 事業選定業者の準天頂衛星システムサービス(株)が企画する「みちびきキッズ宇宙教室 準天頂衛星「みちびき」ペーパークラフト教室」の実施意図に賛同し、センターのイベントに組み入れて開催した。(平成29年3月5日(日))

⑤ 季節イベント

科学館が実施する季節感を演出したイベントとして、「七夕の星空に願いをかけよう！～楽しい七夕飾りづくり～」(7月2日(土)～7日(木))や「ミュージック・ベル♪コンサート」(12月23日(金祝)～25日(日))などを開催した。

⑥ プラネタリウムイベント

オリジナル番組の関連イベントとして、監修者による講演会や上映前のポイント解説等を実施した。

○「人類が火星へ行ける日」(7月31日(日))

○ワークショップ「影絵人形をつくってみよう」(11月12日(土))

その他、プラネタリウムの独特な楽しみ方で関心を深める機会として「星のお兄さん！？爆笑プラネタリウムショー」を開催した。(11月13日(日))。

⑦ 星空コンサート

プラネタリウム施設の幅広い活用方法の実践、新しい来館者層の開拓を目的として、音楽とプラネタリウムをコラボレーションさせた企画「星空コンサート」を実施した。

<演奏者一覧>

4月27日(水)	中島健(電子ピアノ) 高端妙子(アルトサクソ)	153人
5月27日(金)	樋口景山(尺八)	203人
6月18日(土)	Soft Voice(歌手)	208人
7月31日(日)	岡本いづみ(バイオリン) 石川福美(ピアノ)	178人

9月3日(土)	米村裕美(シンガーソングライター)	148人
9月28日(水)	樋口雅礼瑠(箏) 長谷川雅楽柚(箏)	141人
10月29日(土)	Tawa Kicco(インディアンフルート) Kyoko(ピアノ)	224人
11月20日(日)	神宮寺直美(ピアノ)	188人
2月3日(金)	Lampi(クラリネットアンサンブル) 緒形真依子、倉愛花理、矢口愛珠	113人
3月10日(金)	長洲毅志(ギター)	119人

1-4. プラネタリウム【公益1】

プラネタリウムおよび全天周デジタル投影システムの機能を効果的に活用し、センター独自の「オリジナル番組」を3作品制作した。また、「星空解説番組」を季節ごとに企画して上映を行った。

オリジナル番組の制作にあたっては、天文・科学技術に関する情報、最新の研究や成果、旬な話題やニーズに応えるコンテンツづくりを意識して番組の制作に取り組んだ。加えて、あらゆる世代の人が親しめるよう「こども番組」、「特別番組」をスケジュールに組み込んで上映した。

その他、新たなプログラムとして、10月からスタッフが生解説を行う「星空解説番組」に加え、「星の世界 星空トーク」と題して、解説者が推すテーマや天文トピックスをはじめ、ヒーリング等の内容構成にも工夫を施し、個性を活かした解説番組に取り組んだ。

(1) 平成28年度上映実績

オリジナル番組	宇宙のはてのむこう側	平成28年3月5日(土) ～5月29日(日)
	火星にいこう My life on Mars	平成28年6月4日(土) ～9月4日(日)
	明るい方へ～影絵と星のファンタジー～	平成28年9月10日(土) ～11月27日(日)
	わくわく惑星ツアー～太陽系最前線～	平成29年1月14日(土) ～5月28日(日)
星空生解説	見上げてみよう！今日の星空 -春-	平成28年3月5日(土) ～5月29日(日)、 平成29年3月1日(土) ～5月28日(日)

	見上げてみよう！今日の星空 -夏-	平成 28 年 6 月 4 日（土） ～9 月 4 日（日）
	見上げてみよう！今日の星空 -秋-	平成 28 年 9 月 10 日（土） ～11 月 27 日（日）
	見上げてみよう！今日の星空 -冬-	平成 29 年 1 月 14 日（土） ～2 月 26 日（日）
	星の世界 星空トーク	平成 28 年 10 月 1 日（土） ～平成 29 年 3 月 24 日（金）
こども番組	名探偵コナン 探偵たちの星 月夜	平成 28 年 2 月 6 日（土） ～6 月 19 日（日）
	妖怪ウォッチ プラネタリウ ムは星と妖怪がいっぱい！	平成 28 年 6 月 25 日（土） ～平成 29 年 4 月 23 日（日）
特別番組	AURORA NIGHT	平成 27 年 9 月 12 日（土） ～平成 28 年 4 月 17 日（日）
	星の島に、願いをこめて 美ら 海に輝く南十字星	平成 28 年 4 月 19 日（火） ～9 月 30 日（金）
	Feel the Earth～Music by 葉 加瀬太郎～	平成 29 年 3 月 25 日（土） ～10 月 1 日（日） 予定
学習番組	小中学校からの要望に基づき、「夏・冬の星座と大三角」「月の満ち欠け」をテーマに適宜実施。	

平成 28 年度は、プラネタリウム運用の中で計画していた機器全般にわたるオーバーホールおよび点検を 11 月 27 日（日）から平成 29 年 1 月 11 日（水）までの 46 日間実施した。

オーバーホールでは、寿命を迎える設備機器や部品等の交換を行い、安定運用が可能となった。また、交換部品の性能向上と効果によって、投映される星の明るさが実測値でこれまでの倍となり、より鮮明で現実に近い星空を再現できるようになった。

期間中の魅力低下への対策として、エントランスホールに仮設プラネタリウムを設置し、天文解説をはじめ、プラネタリウム体験ができる「みんなのプラネタリウム」を無料で展開し、サービスの提供を行った。

○期 間：12 月 3 日（土）～平成 29 年 1 月 13 日（金）

○観覧者数：3,088 名

(2) プラネタリウム施設におけるバリアフリーに向けた取り組み

プラネタリウム施設におけるバリアフリーの取り組みとして、オリジナル番組の字幕（日本語）、副音声（日本語、英語）、補聴援助機器（磁気誘導ループ）によるサービスの提供を行った。

また、英語版副音声の作成にあたっては、地域のインターナショナルスクールや外国人ボランティアのみなさんの協力を得て実施した。

- 字幕投影 : 105回
- 副音声（イヤホン） : 日本語 243 件／英語 322 件
- 補聴援助機器（タイループ） : 日本語 26 件／英語 0 件

(3) 平成 28 年度オリジナル番組の他館上映実績

これまでセンターが制作したオリジナル番組の「楽しい星座さがし」や「ゴッホが描いた星空」など延べ 5 作品が、他の科学館や博物館などの延べ 5 館で上映され、他館のプラネタリウム運営での星空・天文の普及活動に貢献した。

番組タイトル	上映館	上映期間
楽しい星座さがし	東大和市立郷土博物館	平成 28 年 3 月 18 日(金) ～平成 29 年 3 月 31 日(金)
ブラックホール～銀河中心にひそむ謎	東大阪市立児童文化スポーツ ドリーム 21	平成 28 年 4 月 26 日(火) ～7 月 7 日(木)
流れ星のひみつ	さぬきこどもの国	平成 28 年 4 月 26 日(火) ～平成 29 年 4 月 25 日(火)
楽しい星座さがし	東大阪市立児童文化スポーツ ドリーム 21	平成 28 年 7 月 8 日(金) ～8 月 31 日(水) 平成 29 年 1 月 2 日(月) ～ 3 月 31 日(金)
ゴッホが描いた星空	東大阪市立児童文化スポーツ ドリーム 21	平成 28 年 4 月 1 日(金) ～平成 29 年 4 月 30 日(日)
ゴッホが描いた星空	コニカミノルタサイエンス ドーム（八王子市）	平成 28 年 9 月 3 日(土) ～平成 29 年 11 月 27 日(月)
流れ星のひみつ	岡山天文博物館	平成 28 年 9 月 10 日(土) ～平成 29 年 9 月 1 日(金)
はじめてのそら	岡山天文博物館	平成 29 年 3 月 11 日(土) ～平成 30 年 3 月 9 日(金)

1-5. 3Dシアター【公益1】

映像技術におけるシステムの発展や一般社会への浸透が加速していること、運用にあたっての設備の機能拡張（スクリーン面積、座席数等）や活用範囲の見直しを図り、12月から「サイエンスシティつくば再発見」（1階エントランスホール）を改築し、2月より上映コンテンツのバリエーションも増やし、新たに「3Dシアター」として運用を開始した。

また3月に同シアターを利用して、社会的な話題となっている「ニホニウム」をテーマにした講演会では、新たな活用方法として愛媛県総合科学博物館と中継で繋ぎ、講演映像の配信や来館者どうしの交流を図った。

1-6. 学会・協議会等活動への参加・協力【公益1】

「全国科学館連携協議会」、「全国科学博物館協議会」、「日本プラネタリウム協議会」、「つくばサイエンスツアー実行委員会」、「日本展示学会」等の活動に職員を参加させて、知見等の資質向上を図った。

（1）科学館・博物館関係

- ① 全国科学館連携協議会の国内科学館研修（平成28年11月、福井）において、「特別展示と常設展示との連携の取り組み」について口頭発表を行った。
- ② 全国科学博物館協議会の第24回研究発表大会（平成29年2月、京都）で「プラネタリウムを通じた地域連携や国際交流の取り組み」について研究発表を行った。
- ③ 全国科学館連携協議会の海外科学館視察研修（平成29年2月、オーストラリア、シドニー・キャンベラ）に職員を参加させて資質の向上を図った。
- ④ 日本展示学会の学会誌「展示学」に身近な“飛ぶ”を科学技術の目線でもっと広げると題して、特別展「飛ぶひみつ」の実施概要を寄稿した。

（2）プラネタリウム関係

- ① 日本プラネタリウム協議会の全国プラネタリウム大会2016（平成28年6月、北海道釧路市）において、「みなで楽しむプラネタリウムを」というテーマで、センターが実施しているバリアフリーに関する取り組みについて口頭発表を行った。

- ② 国際プラネタリウム協会の Revolve IPS Conference Warsaw2016（平成 28 年 6 月、ポーランド／ワルシャワ）において、「教育のための先進的なプラネタリウム番組について」というテーマでオリジナル番組制作の事例発表を行った。

1-7. 施設・設備の修繕【公益 1】

安全対策の強化及び節電の観点から、エントランスホール上部照明をはじめ、館内照明の LED 化を進めた。

また、施設の魅力度向上を意識して、1 階売店脇の男女トイレの改修を行い、入館者が利用しやすい環境の整備に努めた。

その他、設備の定期点検において経年劣化や不具合が認められた機器等の工事（自動ドア・防火シャッター安全装置設置工事）や設備の修繕を計画的に実施した。

1-8. ミュージアムショップ、駐車場の運営並びに施設の利用促進【収益 1】

(1) ミュージアムショップ、駐車場の運営

科学館におけるミュージアムショップのあり方について常に意識し、科学館として相応しい品揃えをはじめ、センターの活動（特別展等）を考慮した売り場づくり、また来館者が立ち寄りたくなるような工夫として、季節を意識した飾り付け等販売環境の整備にも力を入れ、ミュージアムショップの運営を行った。

また、オリジナルグッズとして、センターのキャラクターである「テクノ筑丸」や現在も根強い人気のある科学万博のマスコットキャラクター「コスモ星丸」などを使用した文房具やお菓子等を製作し、売り上げの促進に尽力した。

そのほか駐車場は、来館者や地域に向けたサービスの一環として、平日は無料開放を行い、気軽に足を運べるよう配慮し、土・日・祝日及び春・夏休み等の繁忙期は来館者限定で利用できるよう廉価の料金で運営した。

(2) 施設の利用

センターの利用促進及びサービスの充実と向上を目的に、引き続き外部事業者へレストランの運営、SL 等イベントの実施を委託した。

レストラン設備については、劣化や老朽化の対応をはじめ、更なる魅力の向上と集客を図るため、10 月から 1 月上旬にかけて大幅な改修工事を行い、科学館というイメージを意識して、「ほし☆カフェ」としてリニューアルオープンした。また、運営する事業者については指名競争を行い、新規業者に運営を委託した。

2. 科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流および科学技術に関する産業界、大学、公的研究機関の連携促進に関する事業

2-1. 普及啓発・人材育成事業【公益2】

(1) 青少年科学啓発

- ① 「第18回全国ジュニア発明展」の応募点数は、9,187点で前年度と比較して、644点増加した。11月19日(土)の表彰式では、最優秀作品(2点)に、文部科学大臣賞を授与した。なお、審査結果の入選数は46作品(小学生部門22点、中学生部門23点、特別賞1点)であった。
また、事業活動と成果を全国的に周知する取り組みとして、他の科学館・博物館等(3館)での入選作品の展示会を実施した。
- ② 科学技術週間において、「一日館長」イベントの実施、期間中のセンター入館料割引を行うとともに、研究施設一般公開に対する支援を行った。
- ③ 第12回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2016」に共催し、優秀な参加者(もっとも発想豊かな解答をしたチャレンジャー)に対し、財団理事長賞を授与した。
- ④ 「日本生物学オリンピック2016」に共催し、優秀な参加者(実験試験部門の第1位)に対し、財団理事長賞を授与した。
- ⑤ 第9回日本地学オリンピック「ぐらんぷり地球にわくわく」に共催し、優秀な参加者(中学生参加者の成績第1位)に対し財団理事長賞を授与した。
- ⑥ 「第17回全国中学生創造ものづくり教育フェア」に共催し、受賞作品をセンターの展示場において展示し、技術・家庭分野等各部門の優秀な参加者に対して財団理事長賞を授与した。
- ⑦ 「第6回科学の甲子園茨城県大会」に共催し、最優秀チームに対し財団理事長杯を授与し、当該チームの生徒および成績上位校に対し記念品を贈呈した。
- ⑧ 茨城県教育委員会等が主催する第60回茨城県児童生徒科学研究作品展・発明工夫展県南地区展の開催に協力した。

- ⑨ つくばチャレンジ実行委員会およびつくば市が主催する「つくばチャレンジ2016」に共催した。
- ⑩ NPO 法人つくば市民活動推進機構が主催する「サイエンスキャンプ in いわき 2016」に協力した。

(2) 参加体験型科学教育活動

①アウトリーチ活動

ボランティアインストラクターの参加を得て、幼稚園、学校、公民館等に対して実験機器貸出、科学出前教室、サイエンスショー等の活動を実施した。実績としては、116件、11,489人の受講者が参加した。

(平成27年度は、99件、9,518人)

②おとなのためのサイエンス講座

あらゆる人が科学技術をテーマに集い、対話し、理解する機会を提供する取り組みのひとつとして、大人が気軽に科学技術について学び、関心を深める場となる「大人のためのサイエンス講座」を平成29年3月から新たに実施した。(3講座/11回、参加者29人)

(3) 科学技術映像

科学技術に関する映像作品を通して、科学技術への理解増進や関心の一層の拡大を目指し、日本科学技術振興財団等との共催で「第58回科学技術映像祭」、日本視聴覚教育協会等との共催で「第15回全国こども科学映像祭」を実施した(全国こども科学映像祭は、15回をもって事業終了)。また、各映像祭の成果発表や活動の周知として、入賞作品上映会をセンターの2階展示場で行った。

(4) 科学館連携事業

科学館・博物館の運営や活動の支援として実施している巡回展や展示ソフト等の貸し出しをぐんまこどもの国児童会館他2館(「エネルギー展示物」と、日本アイソトープ協会武見記念館他1館(「科学技術の『美』パネル展」CD-ROM、「切手で見える世界の科学技術の発展」CD-ROM)に行った。

(5) その他

地域の教育機関と連携して「つくば市教育研究会理科教育研究部・理科主任研修会」の開催に協力し、財団活動の紹介等を行った。

職場体験等の実施については、他県からの受入申請も含め、小・中学校（7校 21名）からあったほか、専門学校からの実習生（2名）、学芸員養成の博物館実習生（5名）を受け入れた。

2-2. つくばサイエンスニュース【公益2】

筑波研究学園都市にある産・学・官の研究機関が発表した科学技術関連ニュースを、分かりやすく伝える Web 版「サイエンスニュース」について、新たな展開やより関心を寄せてもらうことを意識し、7月にホームページの全面リニューアルを行った。

具体的には、ホームページデザインのイメージを一新したほか、科学技術振興機構が運営するサイエンスポータルとの連携で、科学技術へのインターフェイス的な役割となるよう意識した。また、随時更新する 2 枠のコラム欄を設けた。リニューアル後の運営管理として、記事更新期間を短縮するよう努め、スタートから 3 月 31 日までのトピックス記事数は 211 件、月 2 回更新するコラムは 36 本掲載した。

2-3. みらいの科学技術振興事業【公益2】

科学技術を取り巻く社会的・国際的変化や要望に対応し、科学技術による産・学・官の連携、地域コミュニティの創造、人材の育成、国際交流の促進等を念頭に、筑波研究学園都市の研究活動がより広く展開され、新たな知やイノベーションの創造に結びつく事業を支援することを目的として、平成 28 年 11 月から新たな方針で事業に取り組んだ。

(1) 国際交流推進事業

筑波研究学園都市で実施される国際シンポジウムに対する支援として、「第 34 回国際スポーツバイオメカニクス学会大会」に対して助成を行った。

(2) 産・学・官研究機関の連携促進事業

- ① 筑波研究学園都市交流協議会が実施する「筑協 FM ラジオ番組放送事業（サイエンス Q）」に対して助成を行った。
- ② 高圧討論会主催の「第 57 回高圧討論会」に対して助成を行った。
- ③ 茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミー主催の「第 11 回 SAT つくばスタイル交流会」、「SAT テクノロジー・ショーケース 2017」を共催し、「SAT フォーラム 2016」に後援した。

2-4. 語学研修事業【収益2】

筑波研究学園都市内の研究者、教育者、支援スタッフ等の英語力の向上と研修の場を活用した人的交流の推進を目的として、文部科学省研究交流センターと共催して英語研修を実施した。受講者数は、昨年度を上回り 26 機関から 353 名（平成 27 年度は、34 機関、295 名）が参加した。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他1】

東京分室において、「科学技術団体連合」および「牧友会」の事務局業務を行った。

II. 公益財団法人の運営等に関する事項

1. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

(開催日)		議題
平成 28 年 6 月 29 日(水)	第 11 回 評議員会 (定時)	<決議事項> ・平成 27 年度決算報告書(案)について ・理事及び監事の選任(案)について ・評議員の選任(案)について ・名誉会長の選任(案)について <報告事項> ・平成 27 年度事業報告書について ・第 17 回通常理事会決議事項について ・資産運用に関する諸規程の改廃について
平成 29 年 3 月 22 日(水)	第 12 回 評議員会 (臨時)	<決議事項> ・理事の選任(方法)について(案) <報告事項> ・第 20 回通常理事会決議事項について ・平成 29 年度事業計画書について ・平成 29 年度収支予算書、資金調達及び 設備投資の見込みについて ・平成 29 年度基本財産基金の運用方針に ついて(運用計画) ・規程の改正について 正規職員就業規程 契約職員就業規程 正規職員給与規程

		契約職員給与規程 評議員、理事及び監事報酬等規程 ・公益財団法人つくば科学万博記念財団中 長期計画中間取りまとめについて
--	--	---

(2) 理事会

(開催日)		議題
平成 28 年 6 月 9 日 (木)	第 17 回理事会 (通常)	<決議事項> ・平成 27 年度事業報告書(案)について ・平成 27 年度決算報告書(案)について ・資産運用に関する諸規程の改廃について (案) ・名誉会長の選任(案)について ・相談役の選任(案)について ・第 11 回定時評議員会の招集について(案) <報告事項> ・理事長職務執行状況報告 ・専務理事職務執行状況報告
平成 28 年 6 月 29 日 (水)	第 18 回理事会 (書面決議)	<決議事項> ・代表理事・理事長の選定について ・業務執行理事・専務理事の選定について
平成 28 年 11 月 16 日 (水)	第 19 回理事会 (臨時)	<報告事項> ・理事長職務執行状況報告 ・専務理事職務執行状況報告 ・基金運用状況と見通しについて <その他事項> ・中長期計画作成の状況
平成 29 年 3 月 9 日 (木)	第 20 回理事会 (通常)	<決議事項> ・平成 29 年度事業計画書(案)について ・平成 29 年度収支予算書(案)、資金調達及 び設備投資の見込み(案)について ・平成 29 年度基本財産基金の運用方針につ いて(運用計画)(案) ・第 12 回臨時評議員会の招集について (案) ・規程の改正について 正規職員就業規程(案)

		契約職員就業規程(案) 正規職員給与規程(案) 契約職員給与規程(案) 評議員、理事及び監事報酬等規程(案) ・公益財団法人つくば科学万博記念財団中 長期計画中間取りまとめ(案)について <報告事項> ・専務理事職務執行状況報告
--	--	---

(3) 監査

平成 28 年 5 月 19 日 (木) ~21 日 (土) 公認会計士による監査
 平成 28 年 6 月 7(火)・8 日 (水) 監事監査

(4) その他

平成 27 年度に 5 カ年計画 (平成 17 年度策定) の 10 年間の総合評価を終え、新たに財団のこれからの 30 年を考え、明確なビジョンと方針を持って中長期観点から計画的に業務を進める「財団中長期計画」を策定した。

策定にあたっては、内部における検討だけではなく、関係機関等 (約 40 機関) との率直な意見交換をはじめ、「有識者懇談会」(計 4 回開催) を設置して幅広い視点からの議論を行い、これからの役割や目指すべき方向に関する検討を重ねた。

2. 資産運用

(1) 運用

①運用収入

年度前半は急激な円高により、予算を大きく下回る見込みであったが、後半は円安が進み、かつ、債券の入替えに伴う売却益もあって減収額の縮小ができたものの、最終的に予算を約 14 百万円下回る収入額となった。

その他、特定資産の取崩しに伴う債券の売却を行い、約 35 百万円の運用益が確定した。

②償還・売却及び購入

		銘 柄	額面	利 率
—	購入	第 4 回ソエテジェネラル劣後債	3 億円	1.834%
償還	—	第 59 回三菱商事 CMS 債	4 億円	1.488%(変動)

償還	—	第3回みなと銀行劣後債	2億円	2.190%
償還	—	三菱UFJ証券ホールディングスPRDC債(豪)	1億円	2.161%(変動)
—	購入	GSファイナンス・コーポレーションPRDC債(米)	6億円	3.510%(変動)
—	購入	GSファイナンス・コーポレーションPRDC債(豪)	1億円	3.550%(変動)
売却	—	第48回ソフトバンクグループ債	1億円	2.130%
—	購入	第3回ソフトバンクグループハイブリッド劣後債	1億円	3.000%(変動)
償還	—	第436回東京電力債	1億円	3.450%
償還	—	第54回三井物産CMS債	6億円	1.285%(変動)
—	購入	モルガン・スタンレーMUFG証券PRDC債(米)	7億円	3.600%(変動)
売却	—	第17回シティグループ・インク債(特定資産)	1億円	2.040%

③その他

財団を取り巻く経済や金融の情勢を踏まえ、リスク軽減に配慮し、柔軟かつ迅速な基金運用を可能とすることを目的に資産運用規程および債券運用規則を改正した。

また、基金運用委員会に代わり基金運用アドバイザー制度を導入し、定期的(3ヶ月に1回程度)に経済関連の見通しや再投資等に関する相談および意見交換を行った。

3. 情報公開・広報

(1) 情報公開

「平成27年度事業報告書及び計算書類等」「平成28年度事業計画書及び収支予算書等」を財団ウェブサイトにて公開した。

(2) 広報

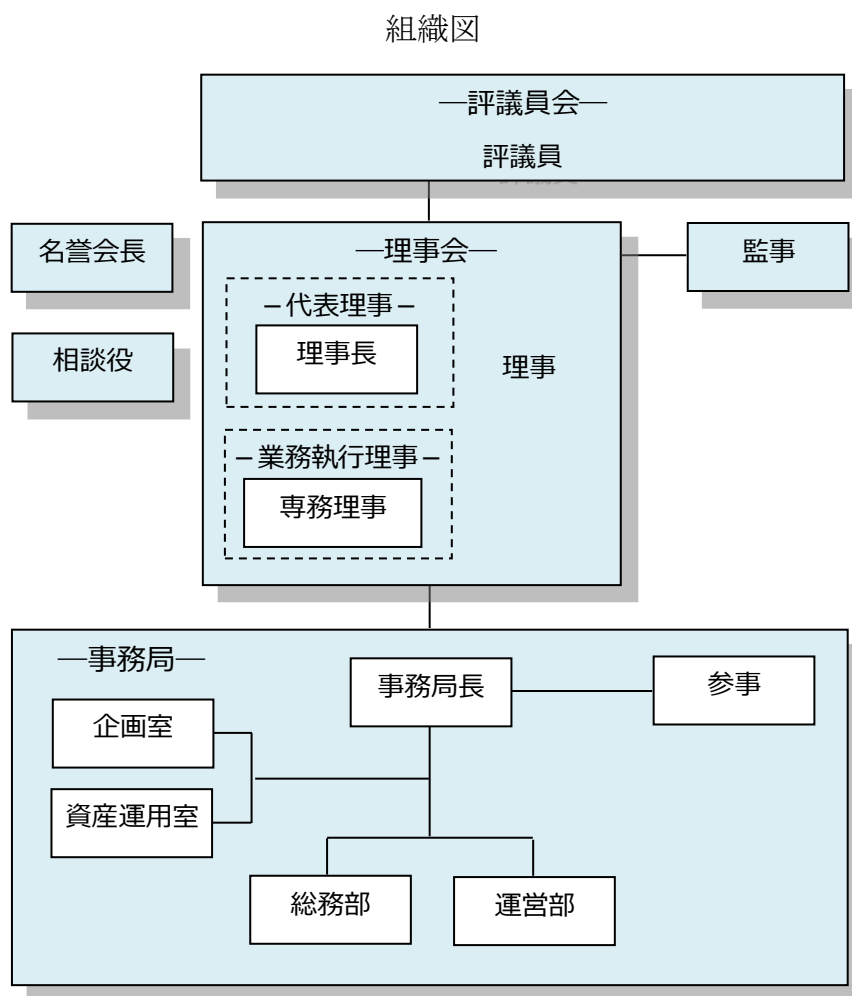
センターの運営を中心に財団の事業活動について筑波研究学園都市記者会をはじめ、報道関係機関等に資料配布を行った(17件(平成27年度16件))。また、センターのプラネタリウムや特別展等の活動については試写会・内覧会を開催した。取材等の対応件数は245件(平成27年度269件)と前年度を下回ったが、お天気中継などTVメディアの受け入れに力を入れた。

その他、活動の周知として各種媒体への広告掲載、自治体等と連携した観光キャンペーン等への参画、イベントガイド、チラシ、ポスターを作成し、周辺自治体、教育機関、観光関係事業者、公共交通機関(つくばエクスプレス)等に配布・設置、ウェブサイトを活用して各種事業およびセンターの活動に関する情報の発信を行った。

財団ホームページのページビュー数は、昨年度比1,630PV減の45,341PV、センターホームページのページビュー数は、昨年度比130,313PV増の1,878,192PVであった。

4. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を置き、事務局に総務部、運営部、企画室、資産運用室を置き業務を行った。



※平成 29 年 3 月 31 日時点

5. その他

法定点検が義務付けられている特定建築物定期調査（10月）、消防用設備等点検および防火対象物点検（9月、2月～3月）を実施し、適切に届出を行った。加えて、消防計画に基づき、消防訓練（7月、3月）を2回行った。

事業報告書の附属明細書について

平成 28 年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。